

○ 本校の概要

【学校規模】	◎学級数：19学級	◎児童数：656名（4月1日現在）	◎教員数：26名	◎所在地：大田区池上7-18-1
【学校の特色】	◎児童は、明るく素直な子が多いが、挨拶や忘れ物などの基本的な生活習慣には個人差がある。学力は、約7割の児童が基本的事項は理解できているが、二極化が進んでいる。 ◎野球、ソフトボール、サッカー、バドミントン、バスケ、バレーボールの6団体「TSA（徳持スポーツアソシエーション）」という組織を構成し、児童の健全育成にあたっている。 ◎体力向上を目指して、全校でのマラソン大会を実施し、保護者・地域・町会と連携して取り組む予定。4～6年生は、学校周辺に周回コースを設定して実施している。 ◎PTAと連携して毎朝集団登校を実施し、児童の安全な登校を見守っている。また、外遊びの時間を学年（低・中・高学年）分割して確保することで、生活リズムの形成と体力向上に取り組んでいる。			

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	評価	人数	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。	3	保護者による学校生活アンケートにおいて、「教え方を工夫して分かりやすく教えている。」の項目に回答した保護者の割合	4: 80%以上	ICT機器を活用し、視覚に訴えることや個々の解答を共有できるようにし、児童一人一人が考えを交流し、深める機会が増えている状況である。次年度も継続したい。また、教師間でのスキルに差があるのも事実である。校内ICT委員会を中心に研修会を計画的に開催するとともにICTポーターとの連携も継続していく必要がある。	A	8	ICT化で教職員の努力が見られる。ニューススタンダードに適切に出来ている印象。
		理論的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	3	3: 70%以上					
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4: 設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3: 80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2: 60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1: 60%未満であった。	4	4					
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4: 対象となる全学級（全教員）で行った。 3: 80%以上で行った。 2: 60%以上で行った。 1: 60%未満であった。	4	2: 60%以上					
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: 対象となる全学級（全教員）で行った。 3: 80%以上で行った。 2: 60%以上で行った。 1: 60%未満であった。	4	授業に関するアンケートにおいて「意欲的に学習に取り組んでいる」と回答した児童の割合	4: 80%以上	児童一人一人がタブレットを使用し、学習のツールとして使いこなしている学年が増えている。そのことが学習への意欲にもつながっている。また、学習カード等を工夫し、常にめあてを意図した授業展開をそれぞれの教員が行ってきた。教材・教具の開発を個々の教員だけでなく、同学年はもとより、学年の枠を越えて共有し、指導力の向上に努めていくようにする。	A	8	タブレットの活用によって児童がデジタルデバイスに慣れ親しめる環境ができていくように思える。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4: 学期毎に知らせた。 3: 学期毎に知らせた。 2: 年度間に1回は知らせた。 1: お知らせできなかった。 4: 対象となる全学級（全教員）が行った。 3: 80%以上の教員が知らせた。 2: 60%以上の教員が知らせた。 1: 60%未満であった。	4	3: 70%以上					
		学習補助員による算数・数学・英語の補習を実施する。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。	4	2: 60%以上					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上が回答した。 2: 60%以上が回答した。 1: 60%未満であった。	3	1: 60%未満					
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4	学校生活アンケートにおいて「学校の決まりを守って生活している。」と回答した児童の割合	4: 80%以上	徳持スタンダードを基準として、指導を行ってきた。教室に掲示し、確認しながら生活するなど実践を促すだけでなく、生活習慣の定着を図る。また、内容の検討や決まった内容を全校児童の前で確認するなど意図的な徹底が必要と考える。 ・いじめアンケートを毎学期行い、児童一人一人と面談することで、問題が深刻になる前に対応することができた。 ・登校支援員や学校特別支援員の活用し支援が必要な児童を見落としなくように努める。	A	8	重大な問題も発生せず、学校として十分な取り組みができて印象。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4: 学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3: 学期に1回（年間3回）以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	3	3: 70%以上					
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	4	2: 60%以上					
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	4	1: 60%未満					
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4	体育の授業や休み時間において、児童の自己評価により、努力した児童の割合	4: 80%以上	保護教諭が中心となり、「早寝・早起き・朝ごはん」月間に取り組んできた。保護者への啓蒙となると同時に児童自身も意識して生活することができた。推進月間以外でも意識して生活できるよう、働きかけていきたい。 ・外遊びは多くの学年で進んで取り組むことができた。体育は、学年または体育部で学習カードを工夫して運動への興味を持たせることができた。 ・体育部を中心に工夫された授業の実践例を発信することができた。	A	8	コロナ禍でも運動会の実施や、マラソン大会も予定されているので、学校として上手く取組んでいると思う。 ・マラソン大会などとても頑張っており、素晴らしい。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4	3: 70%以上					
		体育的行事、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4	2: 60%以上					
		持久走の取り組みを通して、児童の体力が向上するように指導する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4	1: 60%未満					
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	4	保護者による学校生活アンケートにおいて、授業に対する肯定的な意見の割合	4: 80%以上	指導教諭の模範授業を参加した教員が職員夕会等で伝達講習するなど共有を図ってきた。 ・区教研の発表者を引き受ける教員が複数おり、指導力の向上を図ろうとする意識が高い。また、そこで学んだスキルを各学年に共有することができた。 ・校内OJTを計画的におこなうことができた。	A	8	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4: 学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3: 学期に1回（年間3回）以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	3	3: 70%以上					
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4: 「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上の教員が回答した。 2: 60%以上の教員が回答した。 1: 60%未満であった。	4	2: 60%以上					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4: 月1回以上行った。 3: 学期に2～3回行った。 2: 学期1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4	1: 60%未満					
プラン6 なごり学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 月1回以上更新した。 3: 学期に2～3回更新した。 2: 学期1回以上更新した。 1: 更新しなかった。	4	保護者による学校生活アンケートにおいて「地域と連携した授業を行っている。」と回答した割合	4: 80%以上	ホームページの更新を毎日行ってきた。児童の活動や学習の様子等を積極的に発信することができた。 ・地域教育連絡協議会は回数をコロナ前と同回数開催することができた。出席率も高く、本校の教育活動へも理解がある。 ・コロナの影響はあったが、各学年、見学先と連絡を取りながら計画的に校外学習を行うことができた。 ・本年は開港70周年の年であり、その記念式典開催に向け、PTA周年実行委員会と連絡を密にとり準備を進めてきた。式典当日も細部にわたりご協力いただきすばらしい式となった。 ・地域支援地域本部とはコロナの状況を鑑みながら、できる活動を話し合い、児童に紹介し、無理のないように配慮しながら実践してきた。	A	7	コロナ禍で行事が出来ない中、70周年記念で地域と学校の連携が取れたと思う。 ・展示会と給食試食会の開催があり、地域の招待をして頂き共有も十分だった。 ・コロナ禍で地域の行事に参加できないのがとても残念です。 ・平素より、もっと地域を利用したいかがですか。生徒たちにとっては地域は故郷です。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。	4: 毎回情報を提供した。 3: おおむね情報を提供した。 2: あまり情報を提供しなかった。 1: 情報を提供しなかった。	3	3: 70%以上					
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4: 学期に2～3回行った。 3: 学期1回以上行った。 2: 年1回以上行った。 1: 実施しなかった。	3	2: 60%以上					
					1: 60%未満					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を